

企画プレゼン・スキルアップ ネット・セミナー

⑬ 段取力（実現性）

2020(令和2)年
二松學舎大学 国際経営学科
非常勤講師 宮地 克昌

目次

1. はじめに
2. 市場環境（情報収集）
3. 傾聴力（情報収集）
4. ベスト・プラクティス（情報収集）
5. マーケット（MTPCマーケティング戦略）
6. ターゲット（MTPCマーケティング戦略）
7. ポジショニング（MTPCマーケティング戦略）
8. コンセプト（MTPCマーケティング戦略）
9. 企画（MTPCマーケティング戦略）
10. 「企画」と「計画」の分離
11. 発想力（新規性）
12. 表現力（明快性）
13. 段取力（実現性）
14. 基本スキル（プレゼンテーション）
15. 論理構成（プレゼンテーション）
16. 説得力（プレゼンテーション）
17. プレゼン力（補足）

実現性を担保する“段取り力”（音声解説）

展示会 組織体制（例）

展示会 役割分担（例）

展示会 実施予算項目（例）

展示会 実施スケジュール（例）

ネットワーク式スケジュールの作成（音声解説）

コンサート スケジュール（例）

ブライダル スケジュール（例）

屋外コンサート 組織体制図（例）

コンサートツアー 組織体制図（例）

コンサート 収入項目（例）

コンサート 支出項目（例）

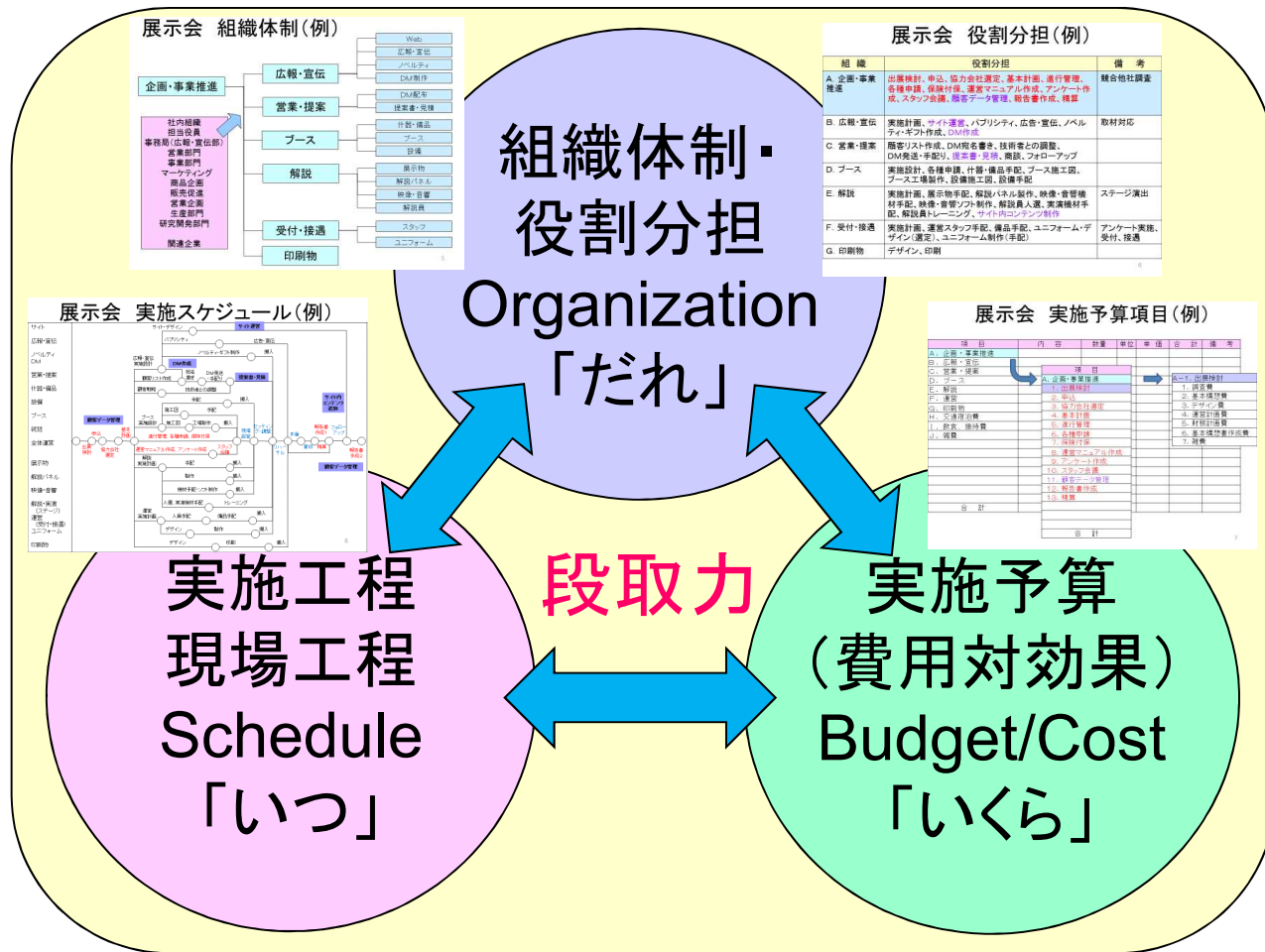
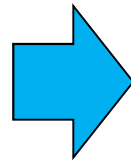
コンサート 予算項目（例）

⑬ー１ 段取り力（実現性）

実現性を担保する“段取り力”

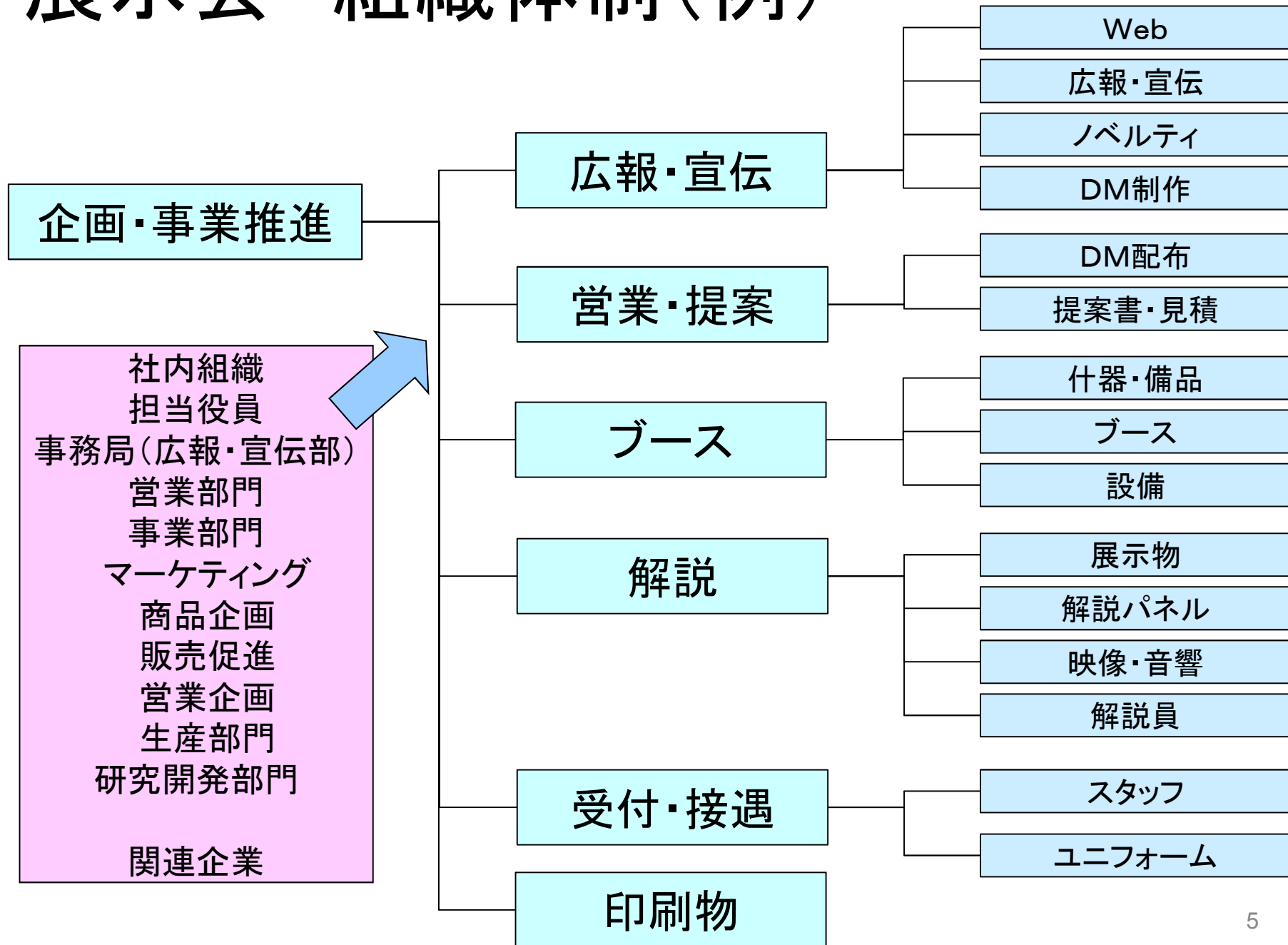
制作決定
から
終了までの

すべての
作業要素
All Works
「何を」



リスク・マネジメント

展示会 組織体制(例)



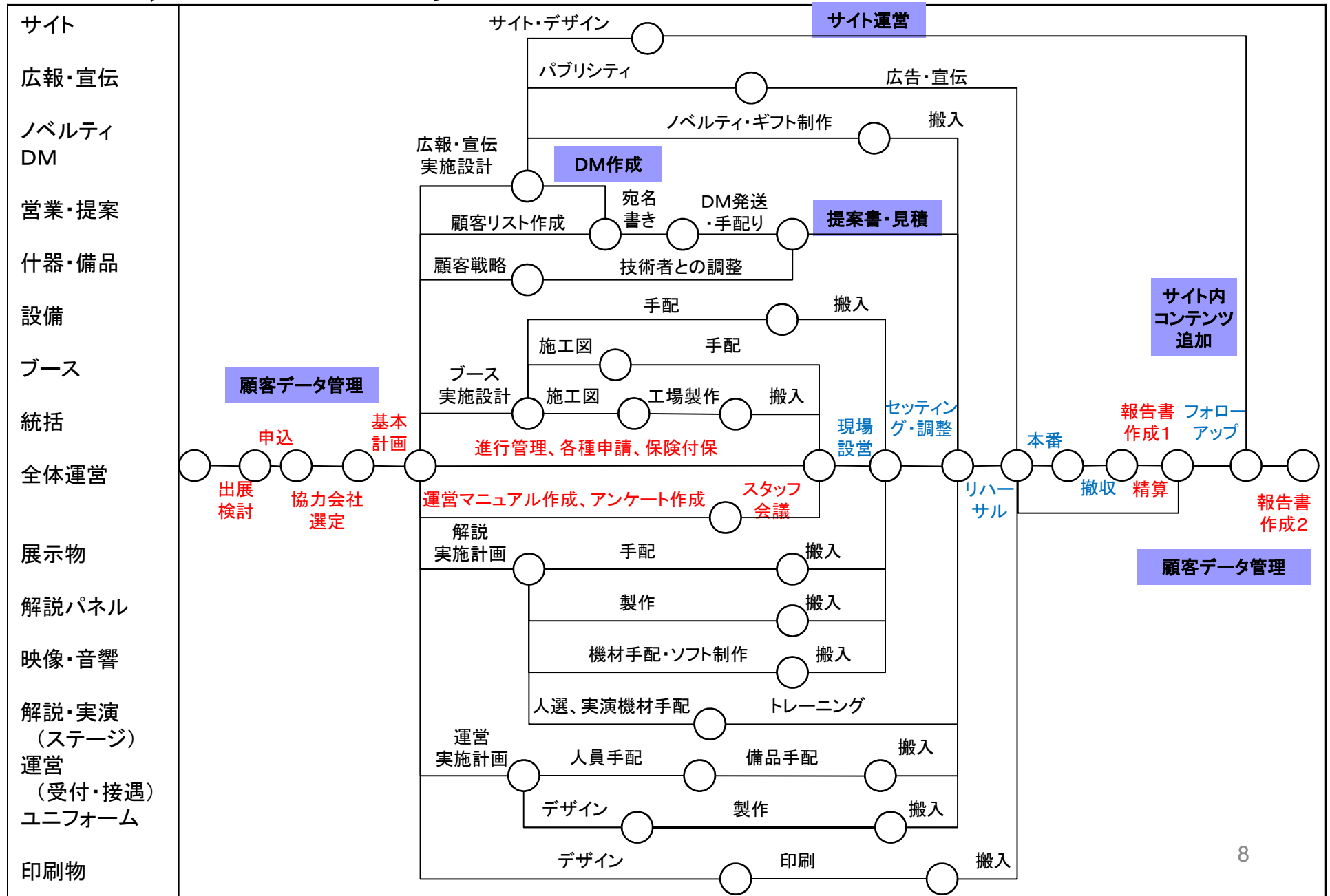
展示会 役割分担(例)

組 織	役割分担	備 考
A. 企画・事業 推進	出展検討、申込、協力会社選定、基本計画、進行管理、 各種申請、保険付保、運営マニュアル作成、アンケート作 成、スタッフ会議、顧客データ管理、報告書作成、精算	競合他社調査
B. 広報・宣伝	実施計画、サイト運営、パブリシティ、広告・宣伝、ノベル ティ・ギフト作成、DM作成	取材対応
C. 営業・提案	顧客リスト作成、DM宛名書き、技術者との調整、 DM発送・手配り、提案書・見積、商談、フォローアップ	
D. ブース	実施設計、各種申請、什器・備品手配、ブース施工図、 ブース工場製作、設備施工図、設備手配	
E. 解説	実施計画、展示物手配、解説パネル製作、映像・音響機 材手配、映像・音響ソフト制作、解説員人選、実演機材手 配、解説員トレーニング、サイト内コンテンツ制作	ステージ演出
F. 受付・接遇	実施計画、運営スタッフ手配、備品手配、ユニフォーム・デ ザイン(選定)、ユニフォーム制作(手配)	アンケート実施、 受付、接遇
G. 印刷物	デザイン、印刷	

展示会 実施予算項目(例)

[illegible]

展示会 実施スケジュール(例)

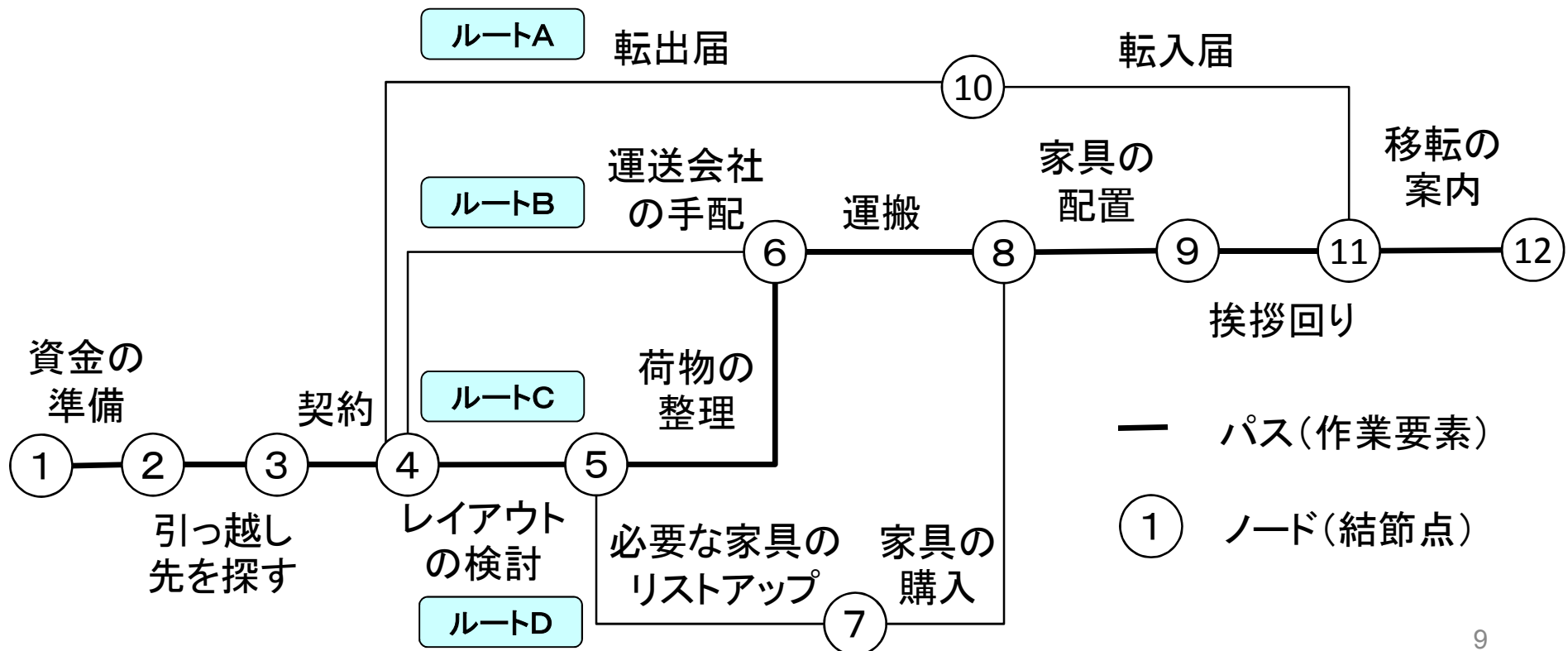


ネットワーク式スケジュールの作成

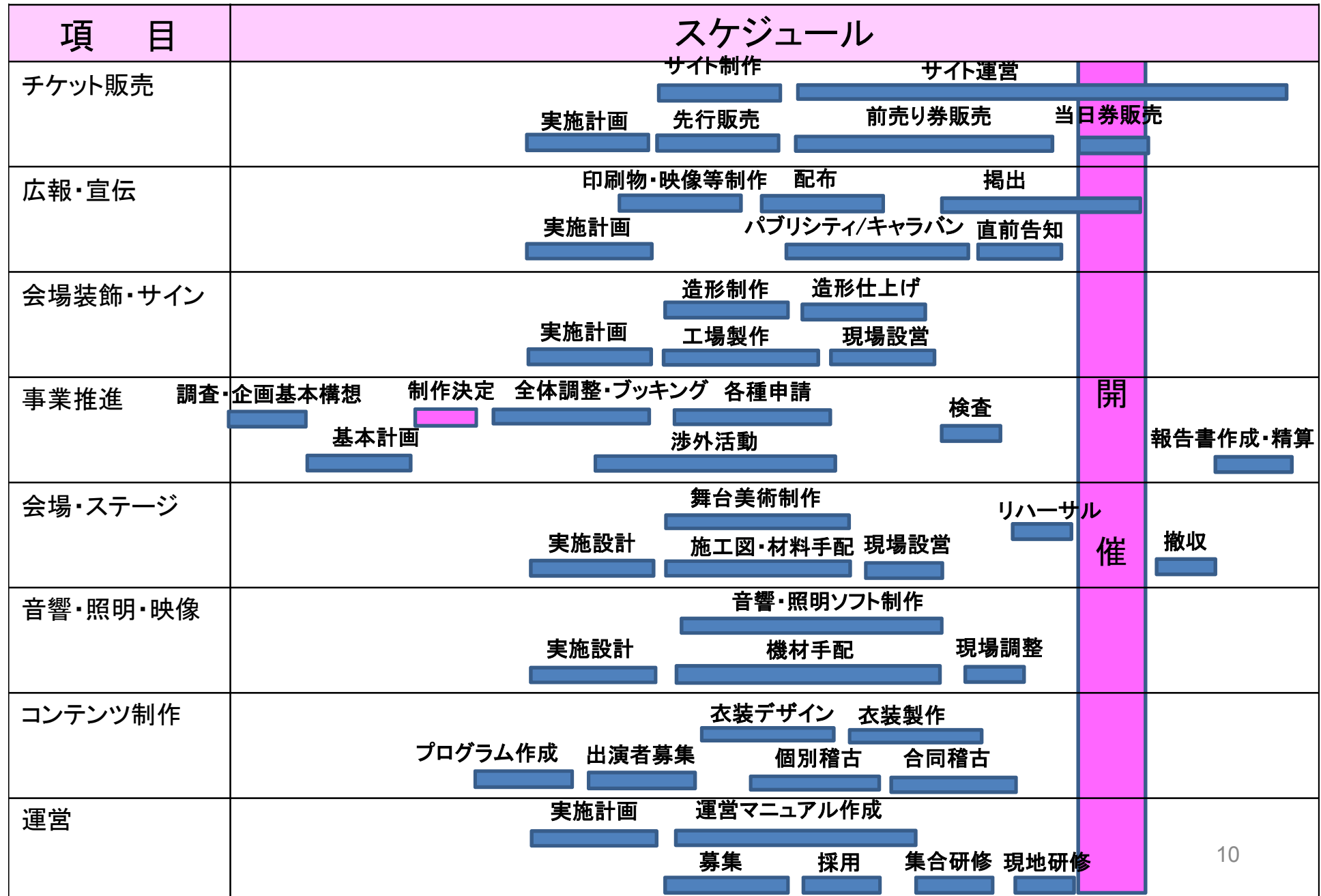
- 引越しに必要な作業要素を抽出する

資金の準備	引っ越し先を探す	運送会社の手配	運搬	移転の案内
契約	必要な家具のリストアップ	家具の購入	転出届	転入届
レイアウトの検討	荷物の整理	家具の配置	挨拶回り	

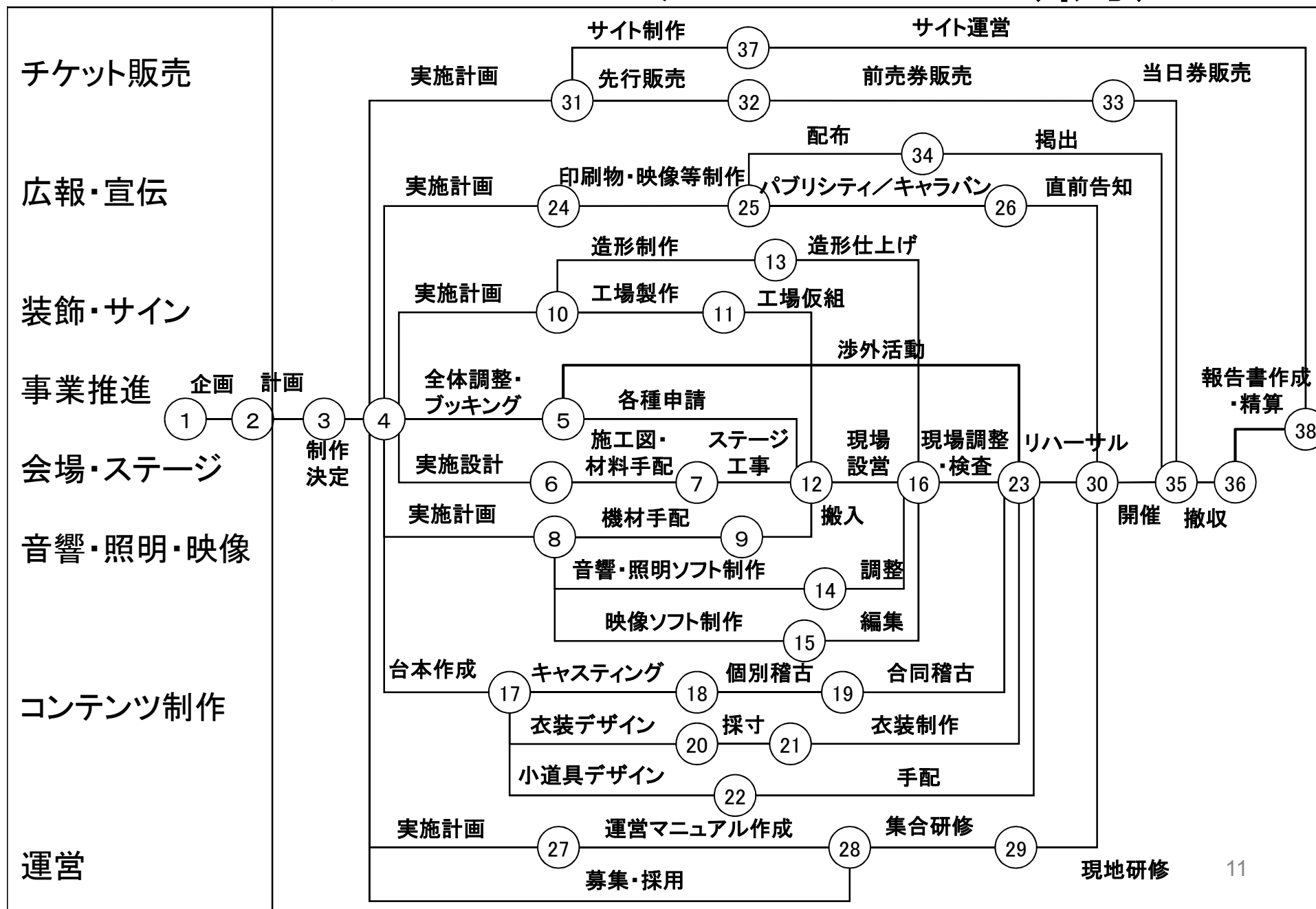
- 前作業と後作業をつなぎ合わせる



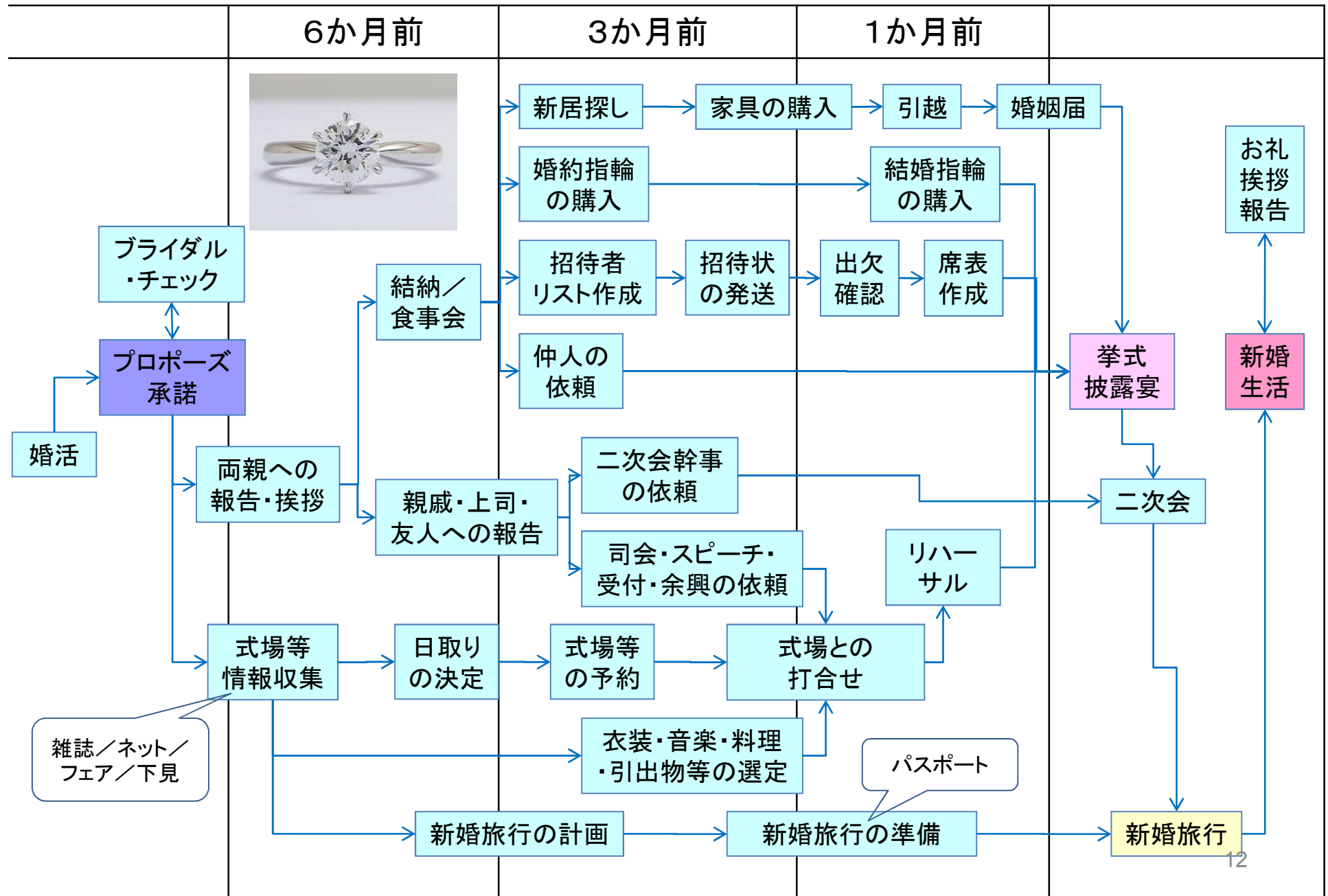
コンサート スケジュール(例)



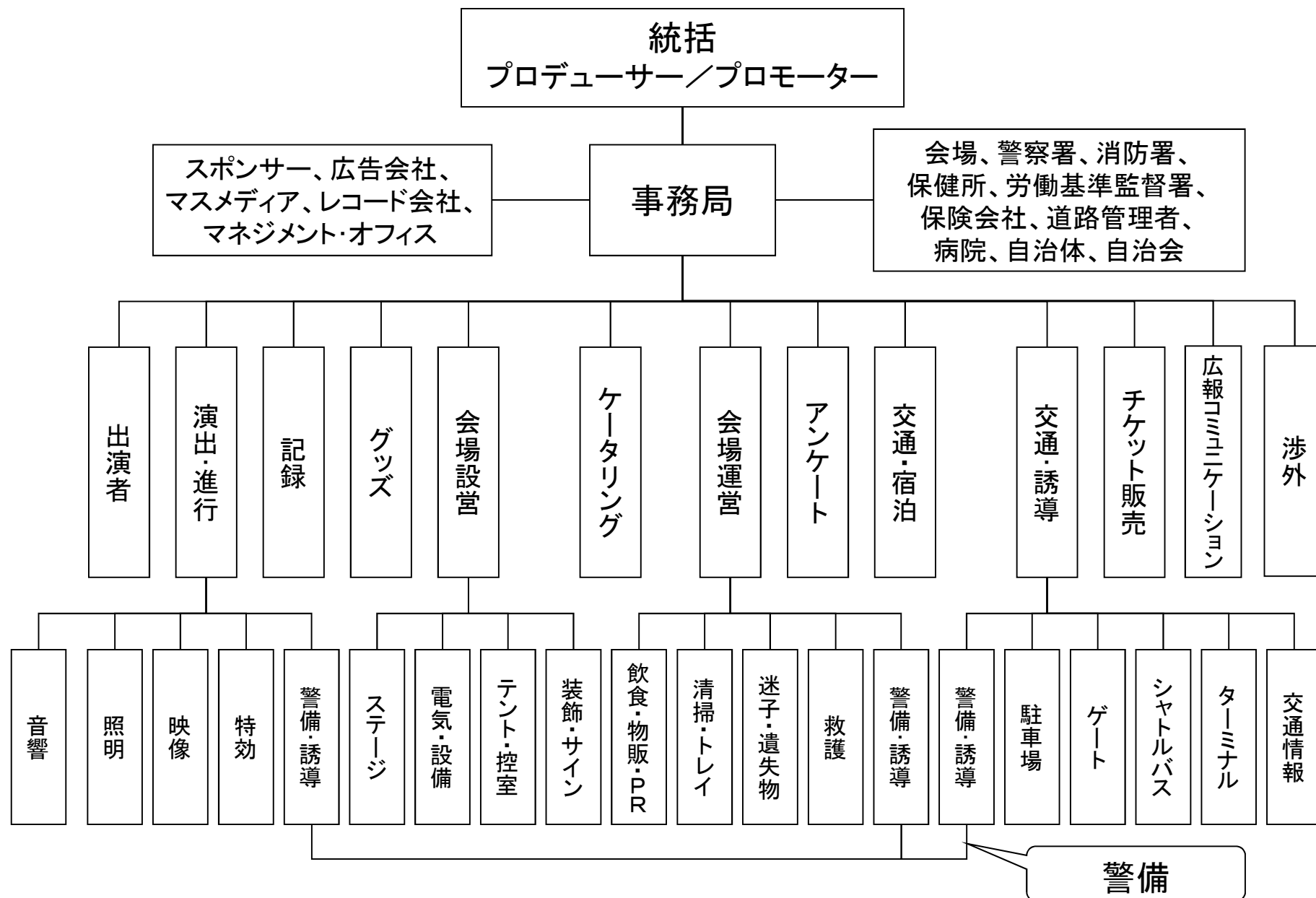
コンサート スケジュール(例)



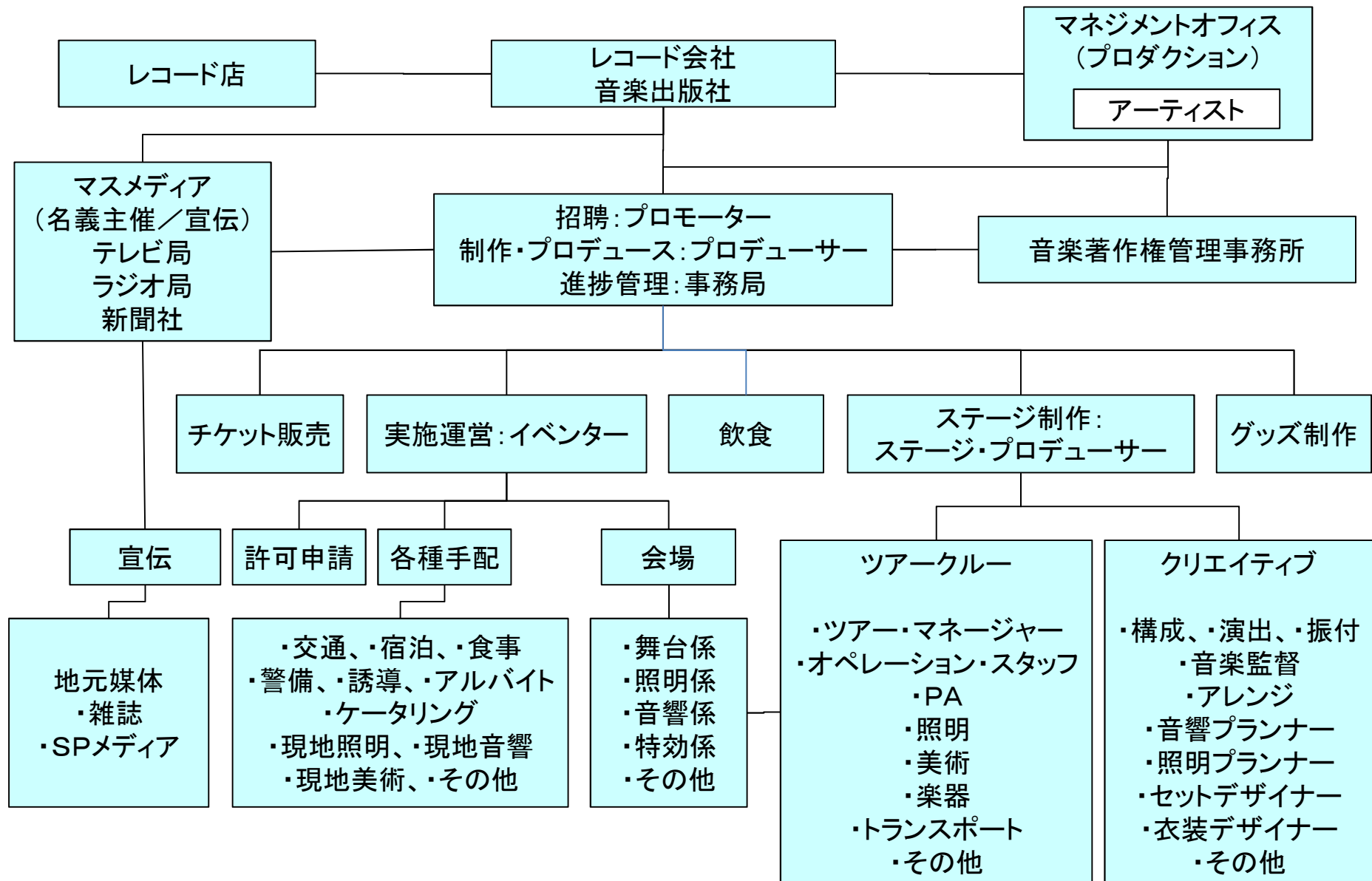
ブライダル スケジュール(例)



屋外コンサート 組織体制図(例)



コンサートツアー 組織体制図(例)



収入項目（例）

- 入場料（チケット収入）
- 出展料
- 出店料
 - 商品販売に関する権利金
 - 販売金額に対するロイヤリティ
- 協賛金／補助金・寄付金
 - スポンサーによる協賛金
 - 文化的な活動に対する支援
- 放映権料
- 広告看板掲出料
- 飲食・物品販売収入
 - 飲食およびパンフレットやグッズなど物品販売による収益

支出項目（例）

- 企画・演出・制作
- コンテンツ関係費
 - タレント／パフォーマー（出演、交通・宿泊、衣装、機材）
- 会場借用料
- 会場設営費（資材費・運搬費を含む）
- 会場運営費
- 広報・宣伝費（マスメディア、広告塔、看板）
- プロモーション費（販促物、印刷物）
- チケット販売手数料
- 保険料
- 事務局費
- 税金

コンサート 予算項目(例)

	項 目	内 容	数 量	単 位	単 価	金 額	
1	企画費			式			
2	舞台制作費			式			
3	音響 & 照明費			式			
4	特効費			式			
5	輸送費	搬入および搬出		回			
6	リハーサル・スタジオ費			日			
7	ミュージシャン	リハ＋当日のギャラ		式			
8	サポート・ミュージシャン	リハ＋当日のギャラ		人			
9	会場費			式			
10	宣伝費			式			
11	アルバイト人件費	食費を含む		人			
12	プレイガイド手数料			式			
13	物販経費			式			
14	著作権使用料			式			
15	雑費			式			
16	営業経費	上記合計の10%		式			
	合計						

事件や事故、トラブルが発生する 可能性が“リスク”
イベントにも参考にしたい “ハインリッヒの法則”
“ブレスト”で抽出する すべてのリスク
すべての作業項目のチェックで リスクを排除
多角的な視点から検討する リスクの排除
イベントのプロとして求められる コンプライアンス
主催者が遵守すべき 関係法規
関連法規に基づく 各種届出
明確にしておくべき 中止や延期の判断基準
過去の事例から学ぶ 「リスク・マネジメント」
「群衆」を研究した ギュスターヴ・ル・ボン(参考)
行動を抑制することで 獲得した“精神生活”
同じリズムの反復によって 生まれる“群衆心理”
現代のイベントでも発生する 生まれる“群衆事故”

⑬ー2 段取力(実現性)

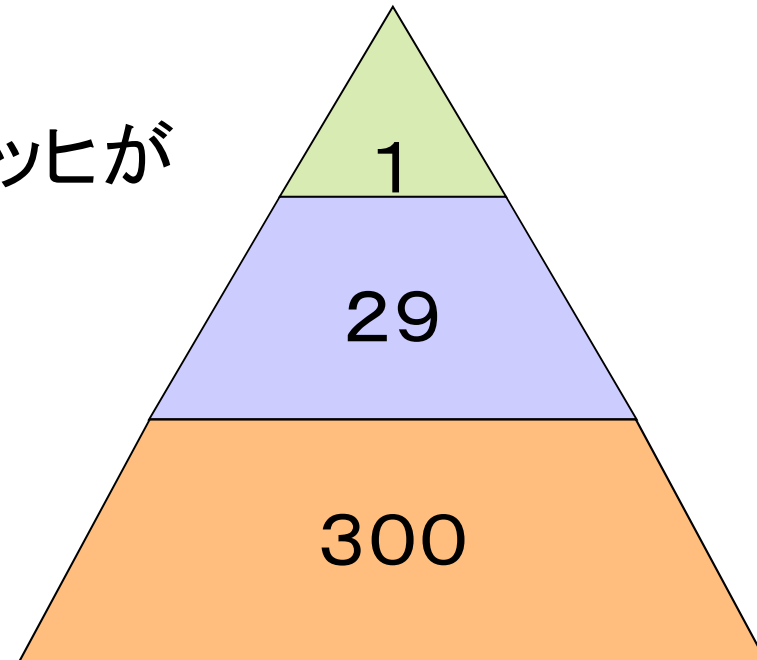
リスク・マネジメント

事件や事故、トラブルが発生する可能性が“リスク”

- 事件や事故、トラブルが発生する可能性を“リスク”として把握し、未然に防ぐように管理するのがリスク・マネジメントである。
- 事件や事故が発生しないように予防すると共に、事件や事故が発生した場合の被害を最小限に抑えることが求められる。
- 事件や事故が発生した場合、謝罪と共に、事実と異なる情報が拡散しないように、的確な情報公開をする必要がある。
- イベントの主催者をはじめ、すべてのステークホルダーが加害者にも被害者にもなり、第三者が巻き込まれることもある。
- したがって、イベントの主催者をはじめ、すべてのステークホルダーが危機意識を持つことが求められる。
- 「事件や事故は、めったに起こらない」、「保険に入っていれば安心」などの考え方に危険が潜んでいる。

イベントにも参考にしたい “ハインリッヒの法則”

- 労働災害における経験則。
- 損害保険会社にいたハインリッヒが330件の災害を研究した。



- 29件のかすり傷程度の軽災害の陰には、300件の「ケガはないがヒヤッとした体験」がある。
- 1件の重大災害の陰には、29件の「かすり傷程度の軽災害」がある。

“ブレスト”で抽出する すべてのリスク

- 多くの人の知識や経験を活かし、一人では気がつかないリスクを発見する。
- 抽出されたリスクの排除について、関係スタッフ全員で同じ認識を持つ。
- ブレストを成功させる4つのルール。
 - ①出された意見を批判してはいけない。
- ① どんなリスクに関する発言も馬鹿にしてはいけない。
 - ②アイデアを実行する手段まで責任を持つ必要は無い。
- ② リスクを排除する方法まで責任を持って発言する必要は無い。
 - ③発展的にたくさんアイデアを出す。
- ③ 発展的にリスクをすべて出し切る。
 - ④アイデアの関係性を検討しながら最後に整理する。
- ④ それぞれのリスクの関係を検討しながら最後に整理する。

すべての作業項目のチェックで リスクを排除

- 主催者は、イベントが事業として成立するだけでなく、社会に認められることを、企画構想段階で十分に検討する必要がある。
- 制作決定後は、すべての作業項目で事件や事故が発生しないように、第三者によるチェックでリスクを排除することが求められる。
- 会場設営では設計および施工・撤去でミスや事故が発生しないように、専門家によるチェックが重要である。
- 交通誘導や会場運営においては、警察や消防との協議し、十分な安全対策を講じなければならない。
- 十分なシミュレーションができていない運営マニュアルは、「いざ」と言う時に役に立たない。
- 関係者による法令違反以外に、外部からの妨害やクレーム、盗難、テロなどへの備えも求められる。

多角的な視点から検討する リスクの排除

- 心筋梗塞、食中毒、過呼吸、落雷、将棋倒し、圧迫、転落、転倒、飛来物、落下物、崩壊、倒壊、交通事故、遊具、過労、感電など、様々な原因で人の生命が危険に晒される。
- 出演者や参加者、観客、スタッフなどの人だけでなく、装置、施設、展示物、金銭、システム、権利、販売物など、様々な対象におけるリスクを検討する必要がある。
- 会場（スポーツ施設、文化施設、商業施設、イベント専用施設、屋外空間など）の特性を考慮し、多角的な視点からリスクを排除する対策が必要である。

イベントのプロとして求められる コンプライアンス

- 許可を得てからイベントを告知する。許可を得ずに事故が起きた場合、「確信犯」と見なされる。
- 法的に許可が下りそうにない内容でも、事前に相談することによって活路を切り開くことが大切である。
- 例え、主催者が不要と言った場合でも、イベントの実施をサポートする企業は、法令で定められた手続きは省略してはいけない。
- 法令違反は、警備業法、建設業法などの資格が取り消されるだけでなく、企業の代表者の責任が問われ、使命停止や営業停止はイベント以外の業務にも及ぶ。
- 現場で実施・運営が変更する必要が無いように、実施計画を十部に検討したうえで許可申請書類を提出する。
- イベントを総合的に請け負う場合は、「元請責任」として安全に配慮する必要がある。

主催者が遵守すべき 関係法規

警察署	警察法、道路交通法、刑法、軽犯罪法、銃砲刀剣類所持等取締法（銃刀法）、警備業法、遺失物法、青少年の健全な育成に関する条例（東京都）
消防署	消防法、東京都火災予防条例、火薬類取締法、高圧ガス取締法
保健所	興行場法、地域保健法、食品衛生法、環境基本法、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（東京都）
労働基準監督署	労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、労働基準法、労働者派遣業法
建築指導課	建築基準法、建築基準法施工令、建設業法、懸垂物の安全指針、工作物（ジェットコースターなど）の安全指針、福祉のまちづくりに関する条例（東京都）
開催場所を管理している諸官庁	道路法、都市公園法、河川法、港湾法、航空法、文化財保護法、屋外広告物法、広告物条例、道路運送法、騒音規制法、風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律
全体および実施・運営	法人税法、独占禁止法、景品表示法、民法、商法、下請法、個人情報保護法、出入国管理及び難民認定法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、著作権法、電波法、旅行業法
コンテンツ制作	関税法、所得税法、電気用品安全法、著作権法、意匠権法、商標権法、実用新案法、特許法、工業所有権に関する手続き等に関する法律、文化財保護法、＜ワシントン条約＞、＜肖像権＞

関連法規に基づく 各種届出

実施内容	関係法規	確認事項、許可申請等	確認先、届出先
屋外広告物の設置	屋外広告物法	禁止広告物、禁止地域の確認	県および市
観客動員	警察法第2条	大勢の人が集まるイベントや広域的に実施するイベントは、安全対策の指導を受ける。また、主催者側の体制に加え、警察署の協力を得て、雑踏警備を行う。	所轄警察署
道路使用(パレード、歩行者天国、マラソンなど)	道路交通法第77条	計画段階から所轄警察署の指導を受け、最終的に所轄警察署長の許可が必要。	所轄警察署
道路占用	道路法第32条	道路管理者の(国、県、市)の許可が必要	道路管理者
仮設会場	消防法	床面積が150㎡以上の場合、防火対象物となり、防火管理者を置き、消火設備の設置が義務づけられる。 喫煙場所も事前に届け出る。	所轄消防署
火気の使用	消防法	花火や裸火の使用にあたっては、厳しい規制があり、事前の許可申請が必要。	所轄消防署

関連法規に基づく 各種届出

実施内容	関係法規	確認事項、許可申請等	確認先、届出先
食品販売・飲食	食品衛生法	食品販売、飲食を伴うイベントの場合は、臨時の営業許可が必要。 食品衛生条例第8条に規定する営業報告に該当しない祭礼・バザー・イベント等でも、健康被害の発生を防止するため、指導要項に従う。	所轄保健所
外国製品の展示のための輸入等	関税法第62条の2(保税展示場の許可)	外国製品を展示する場合は、保税展示場の許可申請が必要。	所管税関
外国からの動植物類の展示のための輸入等	関税法第6章 税関	ワシントン条約において厳しく制限されているため、事前に十分な調査と対策が必要。	所管税関 経産省
企業協賛、寄付金		イベント等への協賛や寄付に対する税の扱いについて事前に確認する必要がある。	国税庁
仮設建築物	建築基準法第2条の2	大型テント等の設置については、仮設建築物として建築確認申請の必要性について事前に確認し、手続きをする。	市建築指導課
海を使うイベント		事前に関係する団体と十分な調整が必要。	県港湾局、海上保安庁、漁協その他

明確にしておくべき 中止や延期の判断基準

- 屋外で開催されるフェスティバルやスポーツイベント、コンサートなどのイベントでは、雨天時の対策を十分にする必要がある。
- 屋外のイベントでは、突風によってテントが飛ばされる事故が多発している。
- 落雷の危険がある場合は、安全なところへ来場者を速やかに誘導する。判断のミスは大事故につながることもある。
- 開催中止や開催場所の変更など、判断をするタイミングと判断基準、情報を提供する手段を明確にしておく。
- 台風の接近に対しては、タイムラインの考え方によるマニュアルの作成が重要である。
- 積乱雲の発生により、大気の状態が不安定になり、大雨洪水警報や雷注意報、竜巻注意報の発令など、気象庁や各地の気象台から発表される情報に注意が必要。

過去の事例から学ぶ 「リスク・マネジメント」

- 2001年7月21日、兵庫県明石市の市民まつり「花火大会」会場の大倉海岸とJR朝霧駅を直結する「朝霧歩道橋」で、会場へ向かう観客と岐路に着いた観客が押し合い、転倒し11人が死亡し、247人が負傷した。
- 2006年8月に浜名湖ガーデンパークで開催された「THE夢人島Fes2006」で、29日(火)にステージの解体撤去時に職人が落花して死亡した。
- 2008年、7月27日、福井県敦賀市港町金ヶ崎緑地公園で開催されていた「つるが港の祭典きらめきフェスティバル2008」で、大型テント4張りが突風に、一人が死亡し9人が重軽傷を負った。
- 2011年8月27日、石川県かほく市の大崎海岸で、夫を驚かそうと、妻らが掘った落とし穴に夫婦で転落後、窒息死した。
- 2012年8月18日、大阪市東住吉区の長居公園で落雷事故が発生し、計10人が病院に搬送され、競技場の出入り口付近のクスノキの下で雨宿りをしていた2人が死亡した。
- 2013年8月15日、京都府福知山市の由良川河川敷で、「ドッコイセ福知山花火大会」の開催中にガソリンが爆発し、死者3名、負傷者59名を出した。
- 2014年5月25日、岩手県滝沢市の岩手産業文化センターで開催されたAKB48の握手会でメンバー2名とスタッフ1名がノコギリで切りつけられ、けがをした。
- 2016年11月7日、東京都新宿区の明治神宮外苑で開催されていた「東京デザインウィーク」で、展示物が炎上し、5歳の幼稚園児が死亡した。

「群衆」を研究した ギュスターヴ・ル・ボン(参考)



- ル・ボン(1841-1931)はフランスの心理学者、社会学者、物理学者で、「暴動」や、熱狂的な「流行」、「社会運動」などについて社会学として分析した。
- フランス革命における九月虐殺では、ごく普通の一般市民が、リンチなどの残虐な行為を行い、また、その行為による死者をにこやかに見物したり、愉快に笑っていた。
- 19世紀末を「群衆の時代」と表現し、野蛮で愚かな心理特性を詳細に分析し、国家の命運をも左右する事態を未然に防ぐため、「群衆」への対応を政治家に提供しようとした。
- 群衆は弱い権力に対して反抗し、逆に強大な権力の前では卑屈になり、本能的に隷属状態へおもむく。
- 誇張し、断言し、反復することによって、過激な感情に衝き動かされる集団を暗示にかけ、コントロールすることができる。
- 催眠状態と同じように、架空のことで簡単に信じ込み、集団的錯覚すら生じることを、ナチス・ドイツのヒットラーも利用したと言われている。

行動を抑制することで獲得した “精神生活”

- 人間は、生命を維持し子孫を残そうとする原初的な欲求があり、その欲求に駆り立てられて行動する性質があり、「本能」や「情動」とも呼ばてきた。
- 人間を含む動物は、環境の変化を自らの感覚器官を通して感じ取り、知覚された対象に対して感情を抱く。
- 動物は、この感情がただちに行動を起こす動機力となって、対象に向かって反応したり、関係を変えようとしたりする。
- 大脳新皮質が発達した人類は、知覚に対してすぐに反応していた行動を抑制することができるようになった。
- 知覚と反応との間にできる空白の時間や瞬間的な停止の中に、私たち人間のイメージや観念、意識、情念などの精神生活がある。

同じリズムの反復によって生まれる “群衆心理”

- 精神生活の中で生まれた太陽の復活や降雨、動物の捕獲を望む同じ情念は、集団のうなり声となって放出される。
- うなり声は、身体を動かしながら同じリズムを刻んで反復されることによって興奮状態が生まれ、人々を“群衆心理”が支配する。
- 共に喜び、共に怒り、共に泣き、共に笑うなど、喜怒哀楽の感情を共有することで、共通の意向または価値を持つ集団となる。
- 個人的なアイデンティティが退行し、自己意識が薄らぎ、自己を群衆の一部分として全体の中に融合する。
- 人間の集団は、“群衆心理”によって原始的衝動にもとづく感情やイメージを共有し、行動を起こす。
- やがて、「まつり」へと発展する集団的な行動は、大自然の復活と再生を表出し、「神」のイメージを創造した。

現代のイベントでも発生する “群衆事故”

- 知的作用が著しく後退し、個々の理性を失い、見識が無くなり、自分自身では正当な判断ができなくなる。
- 催眠状態と同じように、他人の判断や発言を鵜呑みにするようになり、付和雷同する。
- 暗示が個体の生存と種の維持のための原始的な欲求と密接にむすびついていることで、ただちに衝動的な行動をとる。
- 架空のことでも信じることによって、集団的な幻覚すら生じ、意識が共鳴しあって周囲にいる人へ感染する。
- 煽動を目的にした言葉によって激しく熱狂的な行動や残忍な行動も生まれる。
- 現代のイベントにおいても、群衆をコントロールできないと、“群衆事故”が発生する場合がある。